



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 大和自動車交通株式会社

上場取引所 東

コード番号 9082 URL <https://www.daiwaj.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 一基

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 齋藤 康典 TEL 03-6757-7164

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	9,188	7.1	241		176		232	
2023年3月期第2四半期	8,578	21.3	51		113		78	96.0

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 166百万円 (%) 2023年3月期第2四半期 28百万円 (98.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	53.58	
2023年3月期第2四半期	18.39	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	29,884	9,375	31.2
2023年3月期	29,153	9,471	32.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 9,329百万円 2023年3月期 9,425百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		2.00		4.00	6.00
2024年3月期		4.00			
2024年3月期(予想)				4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,300	2.8	450		350		500		115.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、本日(2023年11月14日)公表の「2024年3月期第2四半期累計期間における業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	5,250,000 株	2023年3月期	5,250,000 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	838,820 株	2023年3月期	936,191 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	4,347,310 株	2023年3月期2Q	4,261,597 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進む中、訪日外国人旅行客の増加や個人消費の持ち直しが見られました。一方で、世界的な地政学リスクの高まり等によるエネルギー価格や原材料価格の高騰、急激な為替の変動など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済環境のなか、当社グループにおいては、すべての人の健康と安全を最優先に、新型コロナウイルス感染再拡大防止に最大限留意しながら、将来のモビリティのサービス化(MaaS)やAIの活用、自動運転分野の更なる発展による事業構造の大きな変化の流れに対応していくため、2022年度を初年度とする3ヶ年中期経営計画「中期経営計画2024」の第2期目を推進しております。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、主要事業である旅客自動車運送事業において、タクシー部門における運賃値上げが寄与したことなどから売上高は9,188百万円(前年同期比7.1%増)となりましたが、人件費の増加や採用活動に伴う宣伝広告費の発生、また、不動産事業において京都府京都市下京区の居住用賃貸収益物件の取得費用(主に建物に係る控除対象外消費税等を一括費用計上)の発生及び連結子会社が保有する貸付債権に貸倒引当金を計上したことなどから、営業損失は241百万円(前年同期は営業利益51百万円)、経常損失は176百万円(前年同期は経常利益113百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は232百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益78百万円)となりました。

報告セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

① 旅客自動車運送事業部門

タクシー部門では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も一段落し、お客様における社会経済活動の正常化が進んだこと、また、更なるサービスの向上や乗務員の労働環境の改善を図るため2022年11月より東京都23区、武蔵野市、三鷹市におきまして運賃の値上げを実施したことにより、売上高は5,264百万円(前年同期比15.1%増)となりました。採用面では、新卒、中途問わず引き続きホームページ、SNSの活用や北海道を中心としたテレビコマーシャルの放映、大学訪問等の積極的な採用活動を実施し、入社後のフォローアップ、上場会社の安心感、福利厚生の実施等を説明し、一人でも多くの乗務員獲得に向けて注力しております。また、少子高齢化等による人手不足解消のために多様化するライフスタイルに合わせた働き方改革で乗務員のパートタイム制を導入いたしました。輸送においては、引き続きニューノーマルタクシーの維持管理に努め、お客様に安心・安全・快適な車内空間の提供を続けております。また、車窓モビリティサイネージサービス

「Canvas」に対応したタクシーの運行やラッピングタクシー等により車両広告の拡販及びビジネスの推進を行いました。広報としては、地域の保育園児とラッピングタクシーとのふれあいイベントを企画開催し業界紙やホームページを通してPR活動を実施いたしました。タクシー車両に興味を持ってもらい、タクシー乗務員の存在、運転の楽しさ等を伝え、憧れられる職業として認知されるよう今後も未来の乗務員達に向けてもアピールしてまいります。環境面では、世界共通の課題であるカーボンニュートラル実現へ向けて、温室効果ガス削減のために電気自動車を多摩地区にて5台導入し稼働しております。人だけではなく環境にも配慮できる企業として認識されるべく今後も注力してまいります。また、2023年4月より十全交通株式会社(本社:東京都府中市)と業務提携を結び、北多摩交通圏への大和ブランドの浸透と信頼獲得へ向けグループ一丸となって、より一層のサービス提供を心掛け、選ばれるタクシーとして邁進してまいります。

ハイヤー部門では、お客様における社会経済活動の正常化が進んだことによりハイヤー需要が高まったことに加え、福祉輸送部門においても新規顧客獲得による売上貢献があり、ハイヤー部門全体での売上高は1,346百万円(前年同期比2.6%増)となりました。経費面では、人件費の増加や燃料費の単価上昇がみられたものの、回復基調が進みハイヤー事業での営業利益を増加させることができました。乗務員教育の面では、新人乗務員指導係及び職員による教育マニュアルの整備と同乗教育を行い、乗務員未経験者に対する教育体制を充実させハイヤー乗務員としてのレベルの向上に努めました。環境面においては、SDGs達成に向けてエコドライブの推進・実施による燃料消費量・温室効果ガス削減に取り組んでおります。

以上の結果、タクシー部門とハイヤー部門等の旅客自動車運送事業売上高は6,611百万円(前年同期比12.3%増)となりましたが、人件費の増加や採用活動に伴う宣伝広告費の発生などから営業損失は16百万円

(前年同期は営業利益43百万円)となりました。旅客自動車運送事業の最重要課題である乗務員確保、高齢化社会の到来に伴い多様化する生活サポート・福祉関連ニーズの高まりに応えるため、大和グループの総力を挙げ、「安心・安全、おもてなし」の更なる向上に努めてまいります。

② 不動産事業部門

不動産事業部門では、引き続きテナントの要望に沿った施設の改善に努めるとともに、大手仲介不動産会社や各物件所在地の地元不動産会社と継続して積極的な情報交換を実施し、事業収益の増強に取り組んでおります。また、所有物件において大規模外壁美化工事と共用部のLED化を行いました。不動産価値を高めるために今後もリノベーションやリフォームを積極的に実施し維持してまいります。

このほか、当期9月において新たに京都府京都市下京区の居住用賃貸収益物件を取得し、不動産事業の強化と更なる収益の増強を進めてまいります。

以上の結果、不動産事業の売上高は471百万円（前年同期比2.1%増）となりましたが、新規物件の取得費用の発生から営業利益は110百万円（前年同期比57.2%減）となりました。

③ 販売事業部門

自動車燃料販売部門では、新規得意先開拓等の顧客営業を強化、仕入コストの見直しを行うことで営業利益の確保に努めてまいりました。しかしながら、2021年秋から続く原油価格の上昇及び自動車燃料の需要が減少する等、厳しい状況が続きました。

金属製品製造販売部門では、原材料価格の高騰を受け鋼材仕入の増加が生じ、また、主力商品であった集合住宅用標準外階段は外部設置という防犯上の観点から生産高は減少傾向にあります。安定的な収益基盤の確立と営業利益の確保に向け、高利益率の見込める特注階段等の受注生産を積極的に展開いたしました。

以上の結果、販売事業の売上高は1,045百万円（前年同期比6.9%減）、営業損失は21百万円（前年同期は営業利益50百万円）となりました。

④ サービス・メンテナンス事業部門

サービス・メンテナンス事業部門では、ゴルフ場クラブハウスの清掃・設備管理をメインとした総合管理業務及び商業施設並びにホテルなどの清掃業務を主要事業としており、顧客との年間契約に基づき、ゲストの皆様にご満足いただけるための安全で清潔な最適環境作りを提供しております。メイン事業であるゴルフ場の利用動向につきましては、コンペ等の団体利用及びレストラン営業は新型コロナウイルス感染症の流行以降減少しているものの、個人利用客は大きな影響を受けておらず、むしろ来場者数は増加しております。そのためゴルフ場の設備更新の工事受注が増加いたしました。また、従来からの取引先とは、一部契約の縮小がございましたが、積極的な新規顧客開拓の営業活動により、前年同期以上の利益を確保することができました。

以上の結果、サービス・メンテナンス事業の売上高は1,060百万円（前年同期比4.2%減）、営業利益は7百万円（前年同期は営業損失5百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間の総資産は29,884百万円となり、前連結会計年度末に比べ730百万円の増加となりました。これは現金及び預金が1,081百万円減少する等の結果、流動資産が1,316百万円減少し、物件の購入により土地及び建物が1,997百万円増加する等の結果、固定資産が2,047百万円増加したこと等によるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ826百万円増加の20,509百万円となりました。これは短期借入金185百万円、流動資産のその他に含まれる未払消費税等が152百万円減少したこと等から、流動負債が683百万円減少し、長期借入金1,475百万円増加したこと等から、固定負債が1,510百万円増加したこと等によるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ95百万円減少の9,375百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が261百万円減少したこと等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の32.3%から31.2%に減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月15日に公表いたしました業績予想から修正しております。詳細につきましては、本日（2023年11月14日）公表の「2024年3月期第2四半期累計期間における業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,104	6,023
信託預金	638	679
受取手形、売掛金及び契約資産	1,720	1,586
商品及び製品	87	93
仕掛品	34	48
原材料及び貯蔵品	81	73
その他	888	738
貸倒引当金	△16	△19
流動資産合計	10,540	9,223
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,259	6,236
土地	10,394	11,296
その他（純額）	1,361	1,488
有形固定資産合計	17,014	19,021
無形固定資産		
その他	66	61
無形固定資産合計	66	61
投資その他の資産		
その他	1,667	1,762
貸倒引当金	△135	△184
投資その他の資産合計	1,531	1,577
固定資産合計	18,613	20,660
資産合計	29,153	29,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	492	423
短期借入金	5,159	4,973
未払法人税等	51	64
賞与引当金	132	133
その他	2,366	1,923
流動負債合計	8,202	7,518
固定負債		
長期借入金	7,380	8,855
退職給付に係る負債	806	799
資産除去債務	296	296
株式報酬引当金	74	42
その他	2,922	2,996
固定負債合計	11,480	12,990
負債合計	19,682	20,509
純資産の部		
株主資本		
資本金	525	525
資本剰余金	10	10
利益剰余金	9,646	9,384
自己株式	△953	△854
株主資本合計	9,228	9,066
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221	284
繰延ヘッジ損益	△5	△3
退職給付に係る調整累計額	△19	△18
その他の包括利益累計額合計	196	263
非支配株主持分	45	45
純資産合計	9,471	9,375
負債純資産合計	29,153	29,884

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	8,578	9,188
売上原価	7,764	8,378
売上総利益	813	809
販売費及び一般管理費	761	1,051
営業利益又は営業損失(△)	51	△241
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	10	11
受取家賃	14	11
保険配当金	39	44
補助金収入	28	22
その他	38	43
営業外収益合計	132	134
営業外費用		
支払利息	68	65
その他	1	3
営業外費用合計	70	68
経常利益又は経常損失(△)	113	△176
特別利益		
固定資産売却益	0	39
特別利益合計	0	39
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	114	△137
法人税、住民税及び事業税	46	65
法人税等調整額	△10	29
法人税等合計	35	95
四半期純利益又は四半期純損失(△)	78	△232
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	78	△232

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	78	△232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△55	62
繰延ヘッジ損益	4	1
退職給付に係る調整額	0	1
その他の包括利益合計	△50	66
四半期包括利益	28	△166
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28	△166
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	114	△137
減価償却費	459	437
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△12	51
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1	1
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	-	6
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1	△4
受取利息及び受取配当金	△11	△12
支払利息	68	65
固定資産除売却損益(△は益)	△0	△38
売上債権の増減額(△は増加)	△121	134
棚卸資産の増減額(△は増加)	△33	△11
長期前払費用の増減額(△は増加)	40	30
前払費用の増減額(△は増加)	36	35
仕入債務の増減額(△は減少)	△28	△68
未払消費税等の増減額(△は減少)	△91	△133
未払費用の増減額(△は減少)	△41	△19
前受収益の増減額(△は減少)	0	△0
長期預り金の増減額(△は減少)	△2	13
その他	26	△150
小計	401	199
利息及び配当金の受取額	11	12
利息の支払額	△67	△67
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△393	96
営業活動によるキャッシュ・フロー	△49	240

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1	△6
定期預金の払戻による収入	6	-
固定資産の取得による支出	△411	△2,313
固定資産の売却による収入	0	39
投資有価証券の取得による支出	△8	△47
長期貸付けによる支出	△7	△11
長期貸付金の回収による収入	9	0
その他	△103	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△517	△2,344
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	40	-
長期借入れによる収入	1,130	2,391
長期借入金の返済による支出	△1,462	△1,101
自己株式の取得による支出	△105	-
リース債務の返済による支出	△299	△254
配当金の支払額	△8	△19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△706	1,016
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,272	△1,087
現金及び現金同等物の期首残高	8,056	6,246
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,783	5,159

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	旅客自動車 運送事業	不動産事業	販売事業	サービス・ メンテナンス 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,886	461	1,123	1,107	8,578	-	8,578
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	173	301	27	502	△502	-
計	5,886	634	1,424	1,135	9,081	△502	8,578
セグメント利益又は損失 (△)	43	257	50	△5	345	△293	51

(注) 1 調整額の区分は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	旅客自動車 運送事業	不動産事業	販売事業	サービス・ メンテナンス 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,611	471	1,045	1,060	9,188	-	9,188
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	193	298	29	521	△521	-
計	6,611	664	1,343	1,090	9,709	△521	9,188
セグメント利益又は損失 (△)	△16	110	△21	7	79	△321	△241

(注) 1 調整額の区分は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。